

汚染物量の再評価

表-1 汚染物量再評価における見直し内容

	第 2 回技術検討委員会資料	追加検討・見直しの内容
対策対象の 土壌・廃棄物量		土壌 TPH 濃度が 1,000mg/kg 超となる範囲を「要対策土壌・廃棄物量」として算出
汚染物量 算出の区分	旧処分場内・外の区分で算出	囲い込み工で境される 5 つのエリア毎に算出
北側工場用地 の汚染状況	データは 1 箇所 (No. 22-22) のみ	ボーリング 2 箇所 (No. 23-07, 08) のデータを追加反映
汚染源部の 油量・PCB 濃度	直近にデータ空白あり	ボーリング 4 箇所 (No. 23-03, 04, 05, 06) のデータを追加反映
油相部に おける油量	土壌・廃棄物の間隙 (35%; 体積間隙率の一般値) を完全に充填していると想定	土壌・廃棄物の全体積の 20% (比浸透量; 溶媒が水の場合の一般値) を充填していると想定
非油相部に おける油量	土壌中 TPH 濃度分析結果を単純平均した濃度で算出	土壌中 TPH 濃度分析結果をもとに三次元的な加重平均を求めて算出

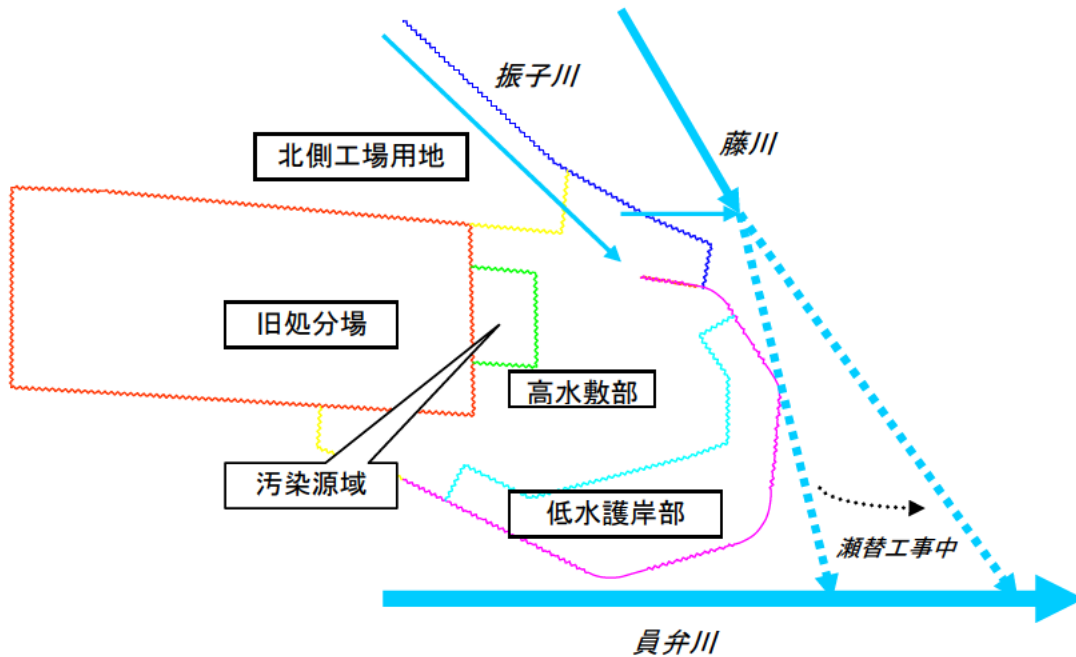
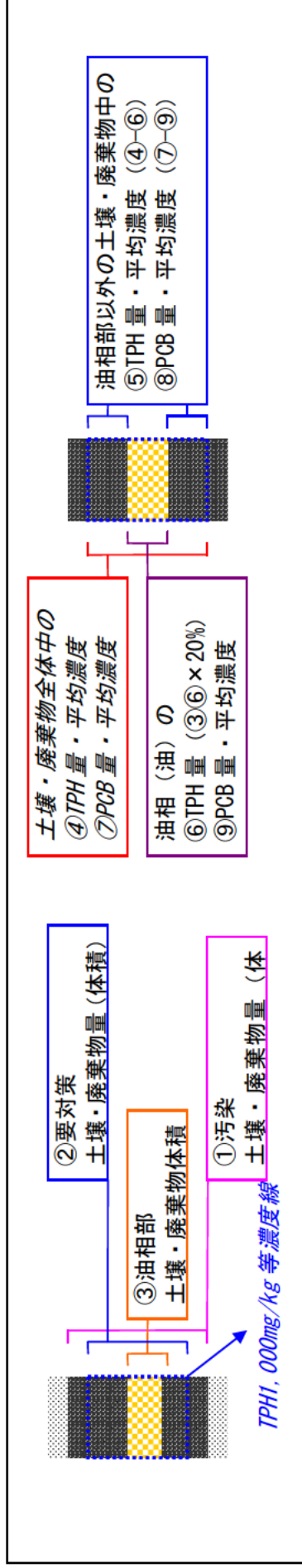


図-1 汚染物量等の算出エリア区分

表-2 汚染物量等計算結果

	単位	第2回 技術検討 専門委員会	今回の見直し							
			全体合計	北側 工場敷地	旧処分場 内	汚染源域	高水敷部	低水 護岸部		
汚染区域面積										
①汚染土壌・廃棄物量	m ²	14,919	14,196	2,317	5,519	370	4,092	1,898		
②要対策汚染土壌・廃棄物量	m ³	66,082	65,431	8,239	36,164	2,866	15,175	2,988		
	m ³	-	42,298	7,265	28,579	1,237	4,988	228		
油量										
③油相としての容積	m ³	2,807	2,268	118	1,765	62	300	24		
油相としての油量(③×20%・油の充填割合)	m ³	5574.9	5,946	319	3,993	174	1,355	105		
④油相部に存在する油量	m ³	1,951	1,189	64	799	35	271	21		
⑤油相部以外に存在する油量	m ³	856	1,079	54	967	27	29	3		
PCB量										
⑥油相部以外に存在するPCB量	kg	677	546	14	234	119	173	6		
⑦油相部中に存在するPCB量	kg	541	343	8	106	67	156	6		
⑧油相部以外に存在するPCB量	kg	136	204	6	128	51	17	1		



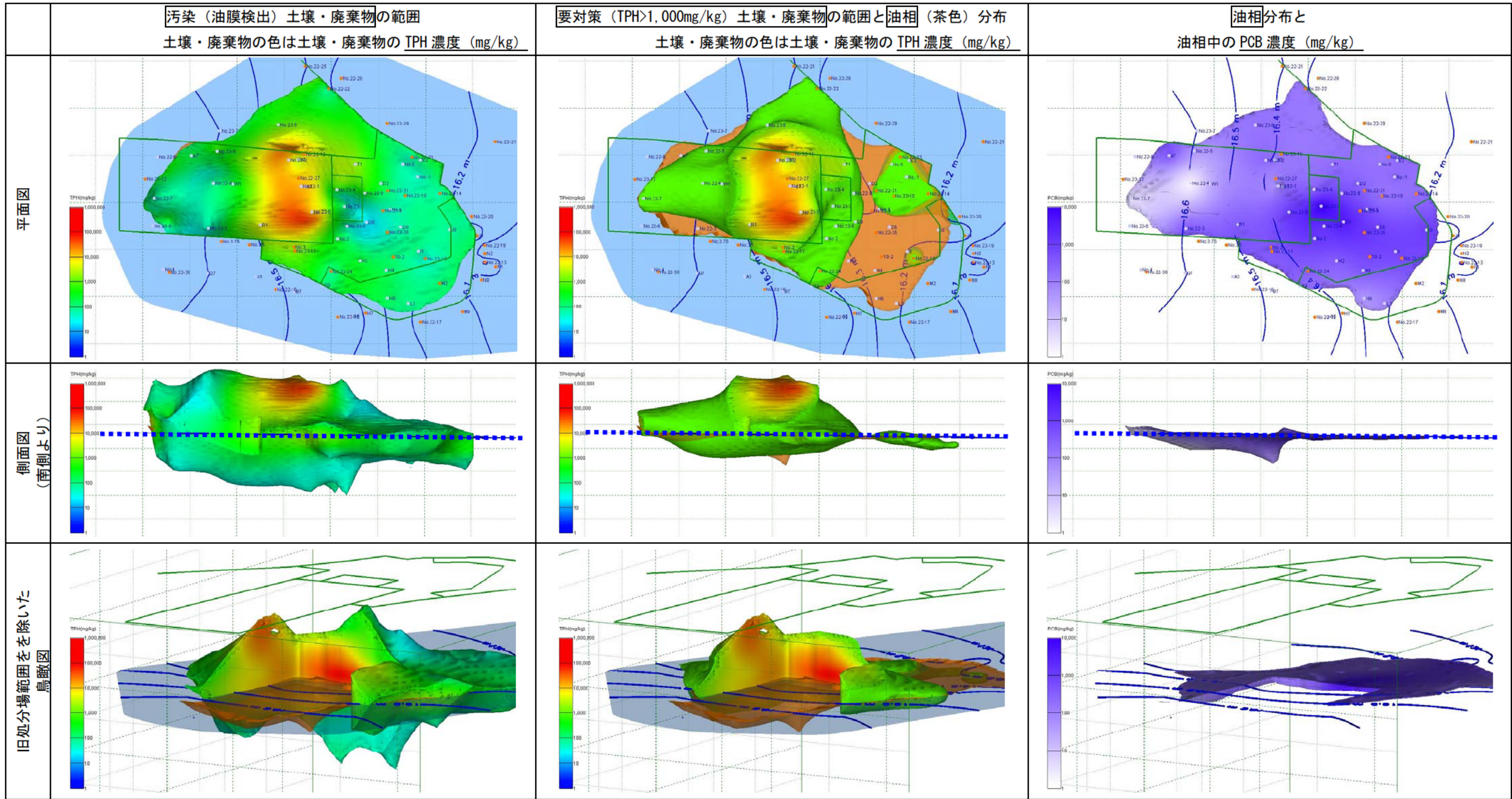


図-2 三次元クリギングによる汚染範囲、要対策土壌・廃棄物、油相形成の状況
青線は地下水位等高線を示す。